



第59号
平成26年 2月28日

発行所
宮城県伊具高等学校
同窓会

責任者 鈴木英晴

印刷所
佐藤印刷株式会社
伊具郡丸森町大内石神57

頭髮自由の夜明け



同窓会会長

佐藤 吉市

会員の皆様には平成26年の新年を穏やかに迎えられましたことをお喜び申し上げますと共に、お元気で活躍のことと存じ、心からお喜び申し上げます。

元旦早朝、久しぶりに友達・妻4人で鹿狼山に初日の出参拝に出かけてみました。この山は丸森町大内と福島県新地町との県境にあり、頂上からは太平洋が一望できる山であります。朝5時、まだ暗い山道を懐中電灯の明かりをたよりに1時間30分位で山頂に到達した時には、新地町の500人以上の方々如初日の出を待っていました。6時50分頃にきれいに水平線から太陽が現れた時に、心から今年1年が良い年であれと手を合わせましたのは私1人ではなかったようです。特に新地町は3年前の地震による大津波で多くの犠牲者

が出て、町民の半数の家屋が流出し、まだまだ仮設住宅での生活が続いている方が多くいます。そのような皆様が3年目を迎えて、今年こそ復旧に期待して手を合わせているように見え、私達も心から早期に新しい住宅に入れるよう祈り続けています。

さて、私が入学したのは昭和41年であります。不安と期待の入学、そして勉強教材の購入と一緒に生徒手帳が配布されました。手帳には伊具高校の校訓・校風・校則がきめ細かく書かれていたように記憶しております。帽子・帽章・制服と詳しく書かれており、特に頭髪は坊主頭以外は禁止であり、長さは耳が隠れたら注意・指導され大変だったように思い出されます。これからの内容は私の記憶によって

おります事を前置きして書いてみたいと思います。私達が3年生の時、生徒総会は春に開催されておりました。総会の前日に同級生の1人が、明日の総会で農業科が中心になって頭髪の自由化を学校側に認めさせる行動を起こす事を提案、全員一致で実力交渉する事に決定しました。担任の先生には内緒で行動する事とし、後輩の1年、2年にも協力してもらおう事を確認、当日まで極秘で進める事で同級生数人で計画を進めました。総会当日、昼食後に開催する事になっていましたので、昼食を早めにすませ、前日に計画した事を着実に実行するため、まず当日準備した数個の電動バリカンで髪の毛の長い生徒達を5厘に剃り落とす仕事から始めました。私も長かったので友達にやっても良かったのですが、非常に痛かった事を今でも覚えています。数10名の髪を新聞紙に包み、帽子をかぶって総会に臨みました。現在もある体育館で全科揃って始まった総会で、私が代表で先の髪に包まれた新聞紙を広げて、学校側に頭髪自由化の実力交渉を始めました。突然の事で教頭・生徒指導の先生達もびっくりしたようでしたが、最後は学校側より生徒会役員と話し合いを持つ条件で、私達の行動も鎮圧されてしまったと記憶しております。終了後には担任の先生から大きな声で怒られました。やっ

た事ではなく行動を起こす時の準備・段取り等について指導されたように思いますし、担任には前もって知らせてほしかったと泣いて言われました。その後、学校側と生徒会役員で話し合いが続き、2年後に頭髪自由化、その後バイク通学が認められたと聞いております。校則と戦ったように見えますが、変える事も大変ですが、守る事も大切であります。社会においても法律があつて生活秩序が成り立っています。この学生時代の1コマは今となっては懐かしい思い出の一つとなっています。

去年のみやぎ県政だより7・8月号で、新県立高校将来構想「第2次実施計画」が策定され、実施計画のポイントを明示された記事を読んだ会員も多いと思います。新校舎供用の開始予定と中学校卒業生数などの見直しを算定し、計画的に学級減を行うと共に、次の点にも配慮しながら学校再編に取り組むようです。

- ・各地区における高校の役割や地域との関わり
- ・各地区の実情を考慮した学校・学科などの選択機会の確保
- ・学校の活力を維持するための学校規模の維持
- ・再編基準に基づく小規模校への対応

このような点を考えながら再編整備して行く方針のようです。平成30年までの5年間における県立高校教育改革の具体的な取り組みには、本校の名前がなかったので一応安心しております。今後少子化が進み、入学予定者数が減っているのは事実であります。我が校が100周年に向け定員割れが今後数年続くような事になりますと、平成30年以降の再編計画に影響するのではと心配しているところであります。私も立場を利用して丸森町長にも伊具高校に積極的に交流を働きかけ、密に情報交換を行い、町と地域の関わりを強め応援し、今後も地域の高校として存続できるよう努力して欲しいと頼んでおります。保科町長からは「同校を巣立った1人であり、この学校で過ごした3年間で現在の私を支えている大きな礎にもなっており、当然思い入れは深いものがありますので、高校との意見交換の機会を十分に確保しながら、必要な情報の収集に努め、学校の存続のために必要な取り組みを行い、町内の活力低下に繋がらないよう努力してまいります。」という言葉をいただいております。

同窓会の会員の皆様にも機会を見ながら伊具高校が将来とも存続できるように話題にしたいと思っております。

(農業20回・大内支部)



100周年に向けて

学校長

三塚明彦

昨年の平成25年4月から伊具高等学校にお世話になっております。赴任早々に校地内の除染土の処理に悩まされましたが、4月中には土の仮処分も終わり、校地の南側の桜の木が例年どおりに美しい花を咲かせました。

このごろは風評被害も少しずつ払拭され、風光明媚な丸森町の自然に戻りつつあると感じております。

この桜の木は、昭和28年創立30周年を記念して植樹されたものであると聞いて大変驚かされました。60年以上も本校生徒職員だけでなく近隣の方々にも春の潤いを与えていたことに感銘を受けました。

また、それだけでなく本校は平成26年には創立94年を迎え、同窓生は1万3千人以上を数え、全国各地で活躍していることに伊具高等学校の歴史の重みも痛感いたしました。私もこの伝統ある伊具高等学校で地域の方々と同窓生の皆様とともに伊具高等学校の発展に少しでも寄与したいと思っております。

さて、現在本校は1学年3クラス定員120名の総合学科の高校です。進路保証100%の目標を掲げ、生徒一人ひとりの希望進路を達成できるようにきめ

細かい指導を行っております。幸い地域の方々や同窓生の皆様のご協力のもと本校職員の努力もあって、ほぼ目標を達成しており、保護者の方々からは一定の評価を得ております。

しかし、近年の少子高齢化は丸森町・角田市にも大きな影響を与え、特に子ども人口減少が著しい状況です。本校では残念ながらここ数年、120名の定員を確保できない状況が続いております。本校生のごほとんどは、丸森町と角田市の中学校出身ですので、ますます定員確保が難しくなるのではないかと危惧しております。

このような少子化、過疎化による地域の生徒数の減少と学校規模の縮小に対応するため、宮城県教育委員会は、平成22年3月に「新県立高校将来構想」を発表しました。それには、本県における今後の高校教育改革の方向性及び高校の再編整備方針を示し、また、第1次実施計画において平成23年から平成27年までの5年間における具体的な取組が示されました。

平成25年2月には、平成26年度から平成30年度までの具体的取組を示す第2次実施計画が出され、平成27年には第3次の

実施計画が公表される予定です。第2次計画までには、本校に関して学科改編や統廃合については何も示されておられません。今後公表される第3次計画では、何らかの方針が示されるかもしれません。

生徒数が減少する中、将来、本校をどのような学校にしたいか、地域の方々や同窓生の皆様と考えるいかなければならない時期に来ているように思われます。これまで伊具高等学校が地域に果たしてきた役割は多大なものでした。平成11年から社会情勢の変化に伴い総合学科に改編されてからも、地域のニーズに応え生徒一人ひとりが自分の生き方を求めて自己の進路を探索できるようにキャリア教育に力を注いできました。

今後も同窓生の皆様と地域に貢献できる学校としての伊具高校の存在意義を確認し、地域のニーズに応えられる人材の育成ができるような学校のあり方を模索していきたく思っております。

本校に赴任して以来佐藤同窓会長さんをはじめ多くの同窓生の方がたとお会いし、また同窓会総会、各地区の総会やしばらく開催されなかった地区の再決起の集いなどにお招きをいただき、同窓生の皆様の熱い思いを肌で感じました。

平成32年に創立100周年を迎えます。本校の地域での役割を検討するとともに創立100

周年の記念事業をどのように実施するか、同窓生の皆様と一緒に考えたいと思っておりますので今後とも母校の発展のために同窓会の皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成25年度総会報告

8月4日(日)午後2時

(評議員会 午後1時)

◎協議事項

- 一 平成24年度事業・会計報告並びに承認
- 二 平成25年度事業計画・予算案審議

三 役員改選について

欠員となっていた監事に南部昌秀氏(農業23回・枝野支部)が選出され、他の役員は再任された。

四 その他

大張・桜支部の再結成について報告があった。

◎懇親会

町内白木屋食堂 午後3時



総会には25名、懇親会には20名の方にお集まりいただきました。支部の再結成が相次いだことから、創立100周年に向けての活動の活性化をお互いに確認し合う有意義な総会・懇親会となりました。

(事務局 鈴木英晴)

母校図書館へ寄贈

「長元坊 佐藤正三詩集」

佐藤正三著

「八巻先生の思い出」

八巻先生の思い出編集委員会編

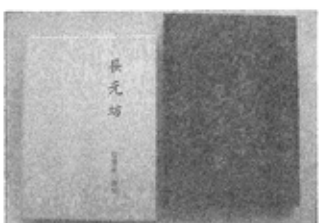
穴戸 富夫 様

(普通2回・仙台支部)

佐藤正三氏は丸森町金山のお生まれで、昭和19年から昭和49年までの30年間本校で教鞭を執られ、穴戸さんの担任でもあったそうです。

また、八巻喜八郎氏は本科男子20回の卒業で、丸森中学校を振り出しに、東京都内の学校・行政機関で献身的に教育改革・進展にご尽力された方です。

今回、母校に縁のあるお二人についてのご本をご寄贈いただきました。ありがとうございます。(事務局 鈴木英晴)



祝受章

瑞宝双光章

布施 泰治 様
(本科男子21回・耕野支部)



このたび多年にわたって耕野郵便局長として郵政事業に尽力された功績に対し、瑞宝双光章を叙勲されました。おめでとございます。

耕野地区の桃泉寺前のT字路からモダンな洋館風の建物が目を引きます。旧耕野郵便局舎です。梁川郵便局を模して昭和13年に建築されたものです。布施さんはここで38年間、局長として尽力されました。当時は電話交換局も兼ね、当直も置かれたそうです。また、電報の配達も大事な仕事だったそうです。

実は布施さんはもう一つの顔をお持ちでした。ご自宅には所狭しといくつものメダルが並んでいます。50代から80代までの約30年間にわたって、全国各地で開催される全日本マスターズ陸上競技選手権大会に1000m・2000mの短距離で出場され、大会記録を塗り替えるなどして優勝したときのものです。道理でお元気なはずです。10年ほど前にはNHKから取材を受け、「80歳のスプリンター」



という番組で紹介され、全国放送されたことです。私たちの先輩にこのような素

晴らしい方がいらつしやると知って、誇りに思いました。奥様もお元気で、仲むつまじくお過ごしのご様子でした。これからの益々の御健康をお祈り致します。(事務局 鈴木英晴)

祝受章

森の能手・名人

穴戸 源子 様
(併中女子2回・丸森支部)



本会会員の穴戸源子さんが、このたび「森の能手・名人」に選ば

れました。これは森に関わる生業等のうち、優れた技を極め他の技術・技能者の模範になっている達人に贈られるものです。穴戸さんはアケビ細工加工において多くの作品を手がけ、その

技術が高く評価されました。なお、穴戸さんはねんりんピック卓球競技で全国各地の大会に出場されたほか、押し花や書道などの趣味をお持ちです。それが若さの秘訣であると感じました。

認定おめでとうございます。(事務局 鈴木英晴)



丸森の自然を愛し、山の恵みに感謝して

穴戸 源子

私は丸森に生まれ、美しい自然の中で80年の歳月を過ごしました。この度、森の伝承、蔓細工の部門でお褒めの認定証をいただきました。これも自然からの贈り物、技術を授けてくれた関係機関と先輩の人たちへの感謝の念で一杯です。「会員の声」として、自分史のつもりで学生時代からの流れを記してみました。

私は小学6年生で終戦を迎え、翌年の春、伊具農蚕学校中等部に入學しました。学制改革により私達は伊具高校の併設中學生として3年間の教育を受けました。級友72名、毎朝の点呼

作りの温かさを感じます。仲間と共に技を研ぎ、丸森の物産品の1つとして次代の仲間にも、物作りの技を伝えていけたらと思っています。

北海道援農隊の記録まとめる

渋谷 正隆 様
(本科男子25回・枝野支部)



この度、本科男子25回2年生が動員令により援農隊として参加した記録を渋谷さんがまとめられました。44名の参加者は北海道日高国沙流郡紋別村豊郷と倉富の2地区に、昭和19年8月から10月までの3か月間、援農に入りました。この記録を渋谷さんが条幅の作品の大きさにまとめられ、軸装もご自分でなさったそうです。地区ごとに生徒の名前と担任の先生の名前が記録されています。当時の写真など、記憶をたどっての作業は困難を極めたのではないかと思います。私達もこのような貴重な財産を次世代へしっかりと伝えていかねばならないと感じました。(事務局 鈴木英晴)



伊具の里

Back to the Future

星 智宏

(農業33回・枝野支部)

伊具高校農業科を卒業してから31年余りが経過し、3人の子らも本校にお世話になり、まさかここにきてPTA会長を拝命するとはお釈迦様もご存知なかったかと思いますが、今年度の役員を同じ農業科卒同級生の阿部副会長とコンビでPTA活動を展開しております。

我々の当時を思い起こせば、通学はバイクでしたので、朝は時間ギリギリに起き朝飯を食べ、べったんこのカバンに弁当を入れて、髪に椿油をつけたリーゼント風で通学していました。しかしながら、農業科は当番で朝6時30分まで農場入りし、作業着に着替え牛舎に行き、搾乳やぼろ出し(糞尿処理)をしたり、豚舎や鶏舎での作業をしていました。どちらかと言えば、校舎内の授業よりは毎日の実習はけっこう楽しかった思いがあります。特に実習で根っ子入りに行き、鶏舎で卵とりや豚舎での給餌等、または養蚕の桑摘みも行いました。リヤカーに選別した卵を乗せてグループで街中で卵を売り歩いたり、少し余剰金を作ってアイスを買って食べた事を思い出します。いまだに

記憶しているのは放課後の牛舎の当番で、今は無きマンサード型の牛舎の中で、敷きわらの上に横たわる牛の分娩に立ち会った事です。破水して前足から出て来るのですが、時間がかかり過ぎるので出てきた前足にロープを巻きつけ数人で引っ張り出しました。子牛の体に付いている粘膜を取り払い、自力で立ち上がるのを待ち、初乳を与えたことを覚えております。当時の我々にとっては生命の神秘に匹敵するぐらいの体験でありました。

現在の伊具高校は制服もブレザーとなり、現代的な学校になり、機械・福祉・農学・情報系列があり、進路指導100%保証の学校になりましたし、また携帯メディアを利用した(プレインメール)学校情報を父兄も共有する事ができ、学校との距離が短縮されたと思います。現代的な学校になった伊具高校ですが、昔我々が感じた何かが遠くに思われ、時代とともに変わっていくのだなと思えました。

海外生活

柏 柳(太田) 粟緒子

(総合6回)

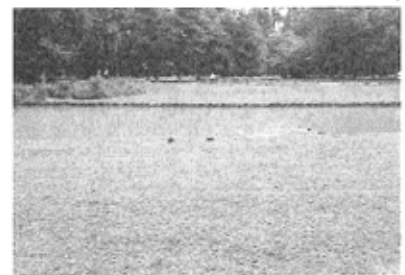
私は高校の頃、地元で暮らしたいと思っていました。それがまさか、海外で暮らす事になるなんて思いもしませんでした。私は今、ドイツのミュンヘン

という所で暮らしています。既に一年半が経ち、すっかりドイツの生活に慣れました。

しかし最初は、カルチャーショックがたくさんありました。特に驚いたのは夏の時期です。自宅の近くにはとても広い公園があり、夏場はたくさんの方の人で賑わいます。多くの人々が水着を着て寝そべり、日光浴を楽しんでいます。川が流れている所では裸で日光浴をしている人もいます。場所はしっかりと決められているものの、何も仕切りがなくすべて丸見えです。初めてそこで外にいる裸の人を見た時は、唖然としてしまいました。しかしドイツ人にとって日光浴はとても特別な事なのです。ドイツの冬は日が短くて暗い時間帯が多いため、そんな季節の中、夏の暑い太陽の光がとても恋しくなるそうです。その為ドイツの人々は夏の間太陽の光を存分に楽しむのです。

レストランやカフェには必ず外の席が設けられていて、室内にいるお客さんは一人もいません。他にも日のあたる素敵なピアガーデンがいくつもあります。ドイツと言えばビールですが、5千もの種類があり、スーパーに並んでいる大量のお酒にはかなり驚かされます。日本から来た方々は皆、ドイツのビールは美味しいと言います。私もドイツの人達に混じって、夏の日差しの中、ビアガーデンで、美味

しいお酒を楽しんでいます。これからも驚く事があるかもしれませんが、ドイツの文化を理解し、ドイツの人々と楽しく過ごして行きたいと思っております。



支部だより

角田支部総会

小形 とき子

平成25年5月26日(土) 角田市本町「中華料理かんの」の2階大広間で、平成25年度宮城県伊具高等学校同窓会角田支部総会・懇親会が開催されました。

佐藤吉市 同窓会長、学校



からは校長先生・教頭先生・事務局の先生方2名にご出席していただきました。

開会の前に角田支部恒例の校歌を斉唱し、参加者一人ひとりが高校生時代を思い出しながら、生き生きと歌声を響かせました。

三塚明彦校長先生より母校の様子や、後輩たちの本年度の県総体・仙南総体等での活躍振りを話していただきました。

参加者全員満足そうにうなずきながら聞き入っていたことが印象的でした。

議事に進み平成24年度の事業・会計報告、平成25年度の事業計画の提案があり承認されました。また、総会の開催の日程を毎年5月の最終土曜日に固定化できないかという提案があり、総会開催を会員の皆様に周知する上でも良い案だと承認されました。

懇親会では近隣支部の会員と合同で開催してはどうかということから、本年度は北郷支部長さんに参加をいただき、例年以上に和やかな雰囲気盛りに上がりました。

平成26年度の角田支部総会・懇親会は平成26年5月31日(土)午前11時より、角田市本町「中華料理かんの」の2階大広間で開催される予定です。近隣支部の会員の方々の参加も歓迎です。会員の皆様、お誘い合わせの上、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

桜支部活動の集い

鈴木善一

(農蚕14回・桜支部)

私が学校を離れて10年に近い年月が流れ、本当に伊具高校が懐かしく、感慨深い思いがあります。そんな中、同窓会事務局から桜支部活動を何とかして欲しいとの依頼がありました。ここ20年近く支部活動がなく、何れも何れも依頼があり、私も母校には数々の思い出や恩がありますので、何とかしたいと思いいい腰を上げました。

まず、3役を募り5名に声をかけて、その後日程を決め準備委員会を立ち上げました。発起人に永山勝男氏、渡辺初子氏と私の3名となり、桜自治センターをお借りして6月27日の午後1時より3役会議を開き、桜支部の集い開催にあたってその目的・趣旨を決めました。あくまで伊具高校の同窓生としての自覚・自信と誇りを持って社会に大きく貢献する姿を示すことを目標に考えました。続いて、開催日を決め、どのようにして同窓生を集められるか考えました。案内状の配布については各地区に役員を配置し、組織を構成して解決に努めました。支部活動費の問題や名簿については、今後の活動方針で確認することになりました。

第1回同窓会桜支部集い開催

開催日 平成25年7月19日

午後1時
場所 桜自治センター
桜支部の組織構成について
支部長1名・副支部長1名・
会計1名
各地区役員

- 1区 加藤義明氏
- 2区 中畑正由氏
- 3区 渡辺初子氏
- 4区 緑川義一氏
- 5区 堀越憲二氏
- 6区 永山勝男氏
- 7区 鈴木善一氏
- 8区 伊藤信子氏

参加者が18名と少なかつたものの、和やかにスムーズに協議が進行し、まずまずの会で終えることができました。同窓会副会長の小形とき子さん、学校長の三塚明彦先生、事務局長の鈴木英晴先生を迎えて、同窓会や母校の報告をしていただきました。部活動等での生徒の活躍についての報告もあり、特に野球部の県大会での活躍は、1回戦・2回戦の飛躍された姿がほほえましく映りました。また、文化部の活動や就職・進学状況についても報告がありました。今後100周年が7年後に迫っているそうです。その協力についても依頼されました。

在学当時を振り返ってみます。通学時には雨の日も風の日も雪の日もあり、遅刻することもありました。何と言っても真夏の山林の下草刈りや、苗圃の草刈り、寒い時や更に雨の中の実習などは、今考えますと本当に我

ながらよく頑張れたと思います。早朝の家畜の世話、病院からの残飯集め、今になって本当に懐かしく、また楽しく、あの実習があつたからこそ今の私があるのだと思います。本当に伊具高で学んで良かったと思えました。鮮明に脳裏に浮かんできます。今後、桜支部活動を楽しみ、仲良く、伊具高魂を信じて、愛して、絆を深めて、強く太く結んでいく所存です。

大張支部設立総会報告

大槻孝雄

(農蚕20回・大張支部)

大張支部はこれまで佐藤行雄支部長(昭和15年卒)、佐藤勇幸副支部長(昭和22年卒)のもとに活動がなされてまいりましたが、会長が病気になるれ入院しお亡くなりになるまで、数年間には活動も低迷し、支部の存続が危ぶまれておりました。危機感を持った勇幸氏から「今日まで活動をしてこなかった。卒業生さえも地区に同窓会があることすら判らない人がほとんどである。私も高齢なので役職を退き、後継の人に再度大張支部を立ち上げ、地域の発展に尽くして頂きたい。」との強い願いがあり、平成24年4月16日、設立に向けての準備委員会を事務局の鈴木英晴先生にアドバイスをいただきながら立ち上げました。

早速同窓会の名簿を行政区ごとに整理しました。昭和21年卒6区の佐藤典夫さんを筆頭に、平成18年卒谷津有沙さんまで実に160名、なんと大張の人口の5・5人に1人は同窓生という結果には驚きでした。

各行政区長より2名の幹事さんを推薦して頂き、更に監事2名を推薦、会則の立案・総会の資料作り・案内・進行などの打合せを終え、8月25日午後7時より、来賓として同窓会正副会長・母校校長・地元議員・自治会長皆様に出席祝辞をいただき、お茶1本でしたが、会員41名の参加のもと、盛大に支部総会が開催され、全ての議案が可決されました。記念講演として丸森支部長であり、普通科第5回卒業の小野正彦先生より、まず、校歌の由来をお話し頂きました。

創立30周年に
かの有
名な作
詞家の
白鳥省
吾、作
曲家の
小関裕
而両先
生に予
算3万
円で依
頼、昭
和25年12月13日制定されたこと
や、大耕分校での思い出、創立
30年〜90年までの学校の変革や
後輩の活躍など、ユーモアを交
えてお話し頂き、大変盛り上が
り総会を終了しました。
写真は
大張で活躍している農
友会
ほとんどが同窓生



同窓会の情報はホームページから

平成22年12月より本会のホームページを開設しています。内容は会長あいさつ・役員名簿・会則をはじめ、思い出広場としてフォトアルバムが掲載されているほか、母校の校歌や応援歌を聞くこともできます。また、事務局からのお知らせとして、総会や各支部の情報を随時掲載しています。会員の皆様にはぜひアクセスしていただき皆様の交流に活用していただければと考えております。

本会ホームページには「伊具高校同窓会」で検索していただくか、下のURLを利用してアクセスしてください。



URL <http://www.igukou.com>

母校だより

農場部の現状と課題

農場部長 津藤 弘之

総合学科の農学系列として体制を改革してから15年が経過している。本校農場は農業を学ぶ生徒の実験圃場と生産圃場に分けられる。農蚕学校として設立された経緯もあり、体験的にはあるが蚕に触れる機会を設けている。以前は根子入農場等での畜産学習も行われていたが、現在では園芸、加工、パイオに関する科目となっている。農学系列の開設と共に、生徒達と地域のニーズを考慮し、現代農業に乗り遅れない農業教育を展開している。

実験圃場として施設と露地を利用して野菜や草花、水田で稲作をおこなっている。さらにはパイオ実験室を使用しての植物バイオテクノロジー、食品加工室を活用しての食品製造実習など農業分野の基礎を幅広く学んでいる。生徒達が学びながら育てた生産物のほとんどは地域販売で地産地消を行っている。4月下旬から5月上旬に「野菜・草花苗の大販売会」を行い、地元のみならず仙台や福島からの購入希望者も多い。平成21年度入学生から1クラス減になり、入学生が減少し農学系列専攻生徒も大幅に減ってしまった。私が

赴任してきた8年前には3学年合わせて60名以上いた農学系列生も現在ではおよそ半数になっている。これは単に入学生の減少ばかりが原因ではなく、若者の農業離れ、延いては農業という産業自体の見直しの時期に掛かっており、生徒達にとって卒業後の農業分野の就業場所確保に不安があるというのも理由の一つではないかと考えられる。その様な中でも例年、農学系列生徒はそれぞれ進路競争に勝利し、しっかりと社会人としての成長を続けている。また、近年は四年制大学への進学者が増え、さらには上のステップで学び、将来は地元に戻り貢献したいという卒業生も多い。先に述べたように農業という産業が昔のように生産中心ではなくなってきたりしている現在、農学系列として生産、加工、流通、販売まで一貫した第六次産業への積極的な参画の出来る生徒の育成に力を注ぎたいと考えている。これまで通り農場を活用して、生産することの基礎基本を学び、自分たちが生産したものを調理、加工することで食品製造の基礎を身につける。さらには販売実習を通して生産物、加工品の販売技術についても学んでいける授業の展開を計画している。自然環境に恵まれた農場を活用して将来、自信を持って地域を支える人材の育成に努め、地域の信頼を得る教育活動に従事して

いきたいと考えている。同窓生の皆様には思い出の残る本校農場を是非訪れていただき、苗販売実習で明るく成長を遂げている後輩達の顔を見に来ていただければと願います。

感謝の心で

硬式野球部の活動から

3年 川崎 匠也

私が野球部の活動で学んだことは「感謝する心」です。普段当たり前のように野球部の練習ができること、試合ができていくことは、実は当たり前なことではなく、多くの人の協力があるからこそできるものだ、と、前監督の原田一貴先生や現在の監督の佐伯友也先生に教えて頂きました。夜遅くまで練習をしたり、グラウンドの良い環境の中でできていることも当然のことですが、実は今まで野球部として活躍した先代の先輩方や地域の方々や私たちが野球部を見守ってくださっていたのでできることです。普段気付きにくいことも知れませんが、こうした多く



の感謝を学ぶことができました。

そこで私は主将としてこの感謝する気持ちをどう表そうか考え、学校や地域でのゴミ拾いや雪かき、挨拶運動を自分たちで自発的に行いました。こうした活動は野球部と地域との輪ができ、活動して良かったと思える活動でした。雪かきをしている際には多くの方から差し入れを頂き感謝しています。このような活動をしてきたからなのか、昨年の春の大会、そして夏の大会は私が見てきた中で一番スタンドに応援に駆けつけてくださった人が多かったと思います。その応援の力もあり勝ち進むことができましたと思います。他の学校は部員数も多く、応援団がいなりする中、伊具高校側スタンドを多くの方が盛り上げてくださっていたと私は思っています。また、その中には伊具高校のOBや同窓会の方がいると、先生から聞いた時は、本当に多くの方が見に来てくれていたのだと嬉しく思いました。

私たちの代は終わりますが、これからも伊具高校野球部はみなさんの協力で活躍していきます。ありがとうございます。

書は努力を裏切らない

3年 佐藤 李香

私が入部した頃の書道部は、先輩方が部活に来る日が少なく、実績は残しているものの、あま

り活動的とは言えません。当時1

年次生は私を含め4人の部員がいて、「サポリ部」というイメージがあった書道部を変えようと一所懸命活動しました。私は部長になってから良い部活にするためにはどうすればよいか、部活のために自分ができることは何かを常に考えました。積極的に部室の掃除をしたり、活動日以外も下校時間ギリギリまで自主練習をしたりして、活動に励みました。

その結果、全国学生書道展や毎日書道展など、さまざまな書道展で入賞し、日々の積み重ねを結果につなげることができました。

新入部員も増え、現在は部室に入りきれないほどの人数になっています。更に看板制作や書道パフォーマンスの依頼をされることも多くなり、運動部に負けないくらい活動的になりました。

伊具高祭ではオープンニングで書道ガールズを披露し、今まではない形で書道部の活躍を見てもらうことができました。展示では部員達の日々の努力が詰



まった作品を展示し、たくさんの方々に書道部の頑張った成果を見て頂くことができてとても嬉しかったです。

私たちは常にどうすれば字がうまくなるかを必死に考えながら、練習に励んでいます。自分のためだけでなく、書道部を伝統のあるものにするため努力しています。顧問の先生や仲間達がいいたからこそ、今の伝統ある書道部を築くことができたのだと思います。そこで後輩たちにはまわりの人々に感謝し、書は努力を裏切らないということをお忘れしないで、私たち3年次生の想いを引き継いで頑張ってくださいと思います。

エコマイレッジチャレンジ 2013全国大会に出場して

2年 山戸田 一揮

今回、私たちは第33回本田宗一郎杯HONDAエコマイレッジチャレンジ2013全国大会に出場しました。私たちはこの大会に向けて、昨年度から部活動の中で省エネカーの製作に力を入れてきました。省エネカーとは1リットルのガソリンで何キロメートル走行できるかを競うものです。

宮城県運転免許センターで行われた手作り自動車省燃費競技大会では、台風という悪天候の中、規定周回をクリアし無事完走し、高校生クラス第1位とな



りました。しかし、エンジンやマフラーに改善すべき点が見つかり、全国大会に直しました。全国大会では悔いの残らないようにしようと頑張っており、毎日のように試行錯誤して納得のいくような車体のセッティングができました。

そして10月5日・6日に行われた全国大会当日、会場に行くと思っていた会場よりも規模も大きく、人数も多かったのが驚きました。1日目は車検と練習走行です。車体の安全性が点検されました。車検を無事通過し、次は練習走行です。走行が無事終了し、改良した部品などのチェックができました。エンジンも順調に動き好調に走行でき、安全に運転することができたので、無事に1日目を終えることができました。

2日目は決勝が行われました。全国大会ということもあり、全国各地からたくさんの方が参加しており、ツインリンクもてぎということからも緊張感が高まり過ぎて、身体が震えました。

私たちは始めて全国大会に参加したのが5名中4名で、経験が浅いチームでした。その中

で各自の役割をしっかりと行い、チーム一丸となって頑張りました。一所懸命頑張った結果、自己記録の更新と宮城県チームの中で第1位という好成績を修めることができました。

今回の大会を通じてたくさんのお話を聞くことができました。一つはチームの仲間を大切に、みんなを力合わせて一つのものを作ることができたということ。二つめは今まで自分たちを支えてくださった先生への感謝です。これからも一所懸命車体の製作を行い、今後も記録の更新を目指していきたいと思っております。これからも応援よろしくお願ひします。

生徒の活躍

春季県高校野球南部地区大会

準優勝
仙南総合体育大会

バレーボール女子 第2位

水泳男子100m平泳ぎ

第2位 小野寺純平

男子200m平泳ぎ

第2位 小野寺純平

弓道男子団体第3位

個人第2位 坂田健太郎

第4位 角張 敦士

第5位 目黒 琢磨

管打楽器ソロコンテスト

銅賞 柴崎かおり

全日本吹奏楽コンクール

名取・仙南地区大会

高等学校小編成の部 銅賞

県高校総合体育大会

柔道女子 第3位 福田 恋香

高野山競書大会

推薦 大河内えり 小野美妃

県学校農業クラブ連盟大会

意見発表大会

環境の部 奨励賞 宗片敦志

食糧の部 奨励賞 杉本浩樹

文化生活的の部

奨励賞 佐藤 美咲

クラブ活動紹介

奨励賞 佐々木輝太

奨励賞 佐藤 美咲

鈴木 和

家畜審査技術競技会

肉用牛 優秀 菊池 茜

肉用牛(団体) 奨励賞

全日本卓球選手権ジュニアの部

仙南地区予選

男子シングルス 第3位 目黒健也

仙南高校美術展

奨励賞 上澤 一真

ふれあい書道展

特選 小野美妃 北村美穂

特選 佐久間なぎさ

県高校生選抜書展

東北電力賞 大河内えり

特選 佐藤 李香

特選 佐藤 李香

宮城野書人会学生展

有隣堂賞 佐藤 李香

恵比寿屋賞 小野 美妃

電気自動車エコラン競技大会

in SUGO

ジュニアクラス ソリッドワークス賞

機械系列

手作り自動車省燃費競技大会

高校の部第1位 電気機械部

【全国大会出場】

仙南新人大会

柔道男子個人60kg 第3位 菊地 響

女子個人第3位 福田 恋香

卓球男子シングルス 第3位 目黒 健也

女子ダブルス 第3位 小野 美里

和田 萌

剣道男子団体 第3位

男子個人 第2位

大石 滉樹

陸上競技

女子300m 第3位 中島友希

男子300m障害第3位 豊田睦矩

県高校新人大会

柔道競技女子第2位 福田恋香

仙南ジュニア陸上競技選手権大会

女子150m 第2位 中島友希

宮城県高校生徒

理科研究発表大会

優秀賞 科学部

全国高等学校校柔道競技

選手権大会県大会

女子 第2位 福田 恋香

【東北選手権大会出場】

仙南納射会

1年男子 第4位 太田了允

第5位 佐藤百華

県高校書道展覧会

特選 大河内えり

日本童謡の書展

準大賞 佐藤 李香

全国学生書道展

半紙の部 優秀賞 佐藤 李香

半切1/2の部

毎日新聞社賞 大河内えり

同級会だより

「黄金会」同級会を開催し

佐藤 鈿 一

(普通10回・関東支部)
伊具高校普通科第10回生として昭和36年3月卒業後52年余、古希をも越えたことを記念して平成25年6月11日、福島県郡山市磐梯熱海温泉で同級会を行った。会場の選定にあたっては、宮城県と関東地区の在住者が大多数であり、その中間付近で先の東日本大震災の復興が原発事故のため大幅に遅れている、また、風評被害も足枷となっている福島県の応援に少しでも貢献できればと考えた。

幹事の参加者見積りもは何時までも元気がつもりで約30名、しかしながら、開催には2つの問題があった。その1つは、身体は正直なもので、年齢相応に健康上の問題もあり、駅近くという条件で会場を探し何とか確保したが、もう1つの問題はまだ仕事をしていて手が離せないという理由が重なったこと、結局、恩師「小山正昭先生」を含め、男性13名、女性9名の合計22名の参加となったが、会場は盛大に開催



することができた。

当日は、三々五々、それぞれ近傍の同士が誘い合い相乗りの楽しい道のりであったらしく、到着時にはかなり盛り上がりがあった。グリーブもあった。3時頃から受付を始めたが、久し振りに懐かしい顔を見つけては、受付よりも先にお互い元気で再会できたことを抱き合って喜んだり、あちこちで話の輪が出来上がったりした。受付を済ませた人は、宿舎の自家泉と市営の元湯の源泉掛け流しの大浴場や展望露天風呂を堪能し、ここでも思いつき話や近況の交換で相変わらず話が弾んでいた。

午後5時30分に記念写真撮影をした後、いよいよ宴の開始。先ず、志半ばで人生を全うした7名の御霊に黙祷で真を表し、次いで恩師から思いつきの言葉をもらい、大蔵君の音頭により声高々に乾杯を発声して宴に突入した。更にテンションは上がり、これが古希を過ぎた人々の集まりかと仲居さん達も目を白黒させていた。何しろ宿自慢の料理に舌づつみをうつつよりも話に華が咲き、口先は動くが箸は動かさず、また喉越しも話疲れで潤す程度という盛り上がり様であった。卒業後初めて参加した人、或いは数10年振りに再会した人等々との間の楽しかったこと、苦しかったことや悲しかったことなどを語り合うことに夢中であった。あつという間に予定の時間が過ぎ、会場側の計らいで延長してもらったがそれでも足りず、ついに

中締めとしてその後は幹事部屋で2次会となった。宿の好意により、幸いにも我々の泊まる部屋は、他の一般客と少し離れていたのがこの盛り上がりで迷惑を掛けることはなかったものと思う。

次の日は、このまま解散するに忍びない、まだまだ話したいことがあるのでどこかでお茶飲みをした。この要望により、猪苗代湖を眺めながら昼ころまで思い思いの話に華を咲かせた。まだまだ話は尽きないし、名残惜しいが今回はこれまでとし、また会うことを約束し、後ろ髪を曳かれる思いで別れを宣言し、皆それぞれの家路につくこととなった。

「黄金会」の由来は、主任が「ゴールデンバット」の愛煙家であったこと、「50年後の我ら」を振って命名したものである。更に「50年後の我ら」は、高校の仮装大会でも使用したテーマでもある。

文集「古希への道」を作成

(普通科第10回同級会「黄金会」)
は、古希を記念して文集を作成されました。在学時代の思い出や卒業後の体験談などの寄稿文を中心に、写真集にはこれまで行われた同級会の写真も掲載されています。今回の同級会でこの文集から話題が広がっていったことでしょう。

(同窓会事務局 鈴木英晴)



「文集作成の経緯について」

(文集送付書より転載)

高校卒業後52年余、本来は50周年記念同窓会を計画していましたが、東日本大震災の影響で延び延びになっていました。そして、古希をも越えたことを機会に、今までの悲喜交々の思い出を語り合える場を作りたいと考え、皆に卒業後の苦労や楽しかったこと、体験・経験したこと、今だからこそ言えることなどを綴ってもらい1冊に纏め、同窓会の開催時に配れるように作成したものです。作成にあたっては、出来る限り写真やイラストを入れ、或いは思い出の写真をアルバム形式にしてその時々を思い出せるよう構成しました。今回の同級会の参加者へは手渡し、不参加者へは郵送することにしたものです。

平成12年度卒業同級会

森 邦弘

(商業36回・丸森支部)
平成25年8月13日、角田市の「ジュネス我妻」にて産業技術科・生活技術科・商業科の合同での同窓会を開催させていただきました。卒業して以来、合同での同窓会というものを開いたことがなかったため、10数年ぶりに顔を合わせる友人などが多く、懐かしさで一杯でした。

有志での始まりだったこともあり、10数年も連絡を取っていないことから参加する人数にも不安は

ありましたが、当日は半数近くの約50人、更には恩師の先生方にも多くご参加いただきました。同窓会当日、久し振りに顔を合わせながら「変わったなあ。」など、和やかな雰囲気でのスタートでしたが、お酒も入ることで昔話、卒業してからの現況報告など、積もる話はたくさんありました。恩師の先生方からも当時のお話をいただき、ふと高校時代を思い出す友人も多かったと思います。

後半からは豪華景品が当たるミニゲームを行い、デジタルカメラやアイズニードのチケットなど、あつた友人はとて喜んでいただいています。最後に参加者全員で集合写真を撮り解散となりましたが、最後まで名残惜しく「また開きたい」という気持ちが強くなりました。現在、次回開催予定のクラス会のために有志の同級生と動いています。どうして今回参加をするのができなかった同級生、そして恩師の先生方にも参加していただきたいと思ひ、会議に励んでいます。

同窓会事務局 鈴木英晴・菅野 厚

